



“よねやま”から広がる新しい世界 ②④ いつも心に寄り添って



東京米山友愛R C
(第 2750 地区 東京都)

カウンセラー
朴 ティヨ
朴 貞子 さん

念願の米山カウンセラー

私の所属するクラブは 2010 年、米山学友を中心に創立された国内初のクラブで、現在の会員 33 人は日本人のほか、7 つの国・地域出身の外国人がいます。私は中国出身の米山学友で、2006 年から 2 年間、第 2640 地区の岸和田 R C (大阪府) にお世話になりました。

第 2640 地区では米山関連の行事が充実していて、奨学生の間、また学友になってからも、さまざまな活動に参加させてもらいました。特に心に残っているのは、地域の高校生との交流事業で、一緒に活動すること、向き合って話をすることが真の交流だと実感しました。「後輩の留学生にもぜひ同じ体験をしてもらいたい」。その強い思いが、ロータリーに入会するきっかけでした。願いは実を結び、私のクラブと、その子クラブである東京米山ロータリー E クラブ 2750 と協同で、2013 年から東京都立小平高校での国際交流授業をスタートさせ、高校生と奨学生に好評の継続事業になっています。

同じように、米山奨学生のカウンセラーも、ロータリーアンになったらぜひやりたいことの一つでした。それまでに受け入れた 6 人の奨学生は、クラブからの指名で決められていましたが、今回は私から「やりたい！ やらせてください！」と手を挙げ、晴れてバン・アルマリキさん(愛称バンちゃん)のカウンセラーになりました。

与えることこそが与えられること

私が心がけたのは、「一生の思い出をたくさんつくってあげよう」ということです。彼女が奨学生として過ごしたのはたった 5 か月間でしたが、凝縮した楽しい時間を味わってもらえたのではないかと思います。

自宅への招待は奨学生にとってうれしい機会の一つで

す。彼女をわが家に招いた際には、米山学友にも来てもらって、アドバイスを受けられるようにしました。卒業式に出席するため、彼女のお母さんが来日した時は、例会や、地区米山奨学委員会主催の「夏の懇親会」に招待し、楽しんでもらいました。彼女が悩んでいる時は、とことん気持ちに寄り添うようにしました。それは、与えることこそが与えられること、与えることが人の真価だと思ったからです。

奨学生の時にはわかりませんでした。この事業に関わると、ロータリアンの方にも奨学生との交流から何か新しいものを得たいという期待があることを理解できるようになりました。実際、国際色豊かな私のクラブにとっても、イラク出身のバンちゃんとの交流は新鮮でした。国際理解や世界平和という遠大なテーマに聞こえますが、その糸口が個人と個人との交流という、ごく身近なところにあるのだとわかり、視野が広がりました。

このように自分を高められる機会と環境があるのは、ロータリーだからこそ。機会があれば、またカウンセラーをしたいと思います。ほかの人にもぜひこの素晴らしい経験をしてもらいたい、多くの人が関わられるよう、クラブではカウンセラーを複数人で担当する形を提案しようとも思っています。

バンちゃんには、私たちのことを家族のように思ってもらって、今後も交流を続けたいと思います。私はカウンセラーとして、彼女が思い描く未来と一緒に目指す気持ちで、これからもサポートしていきます。



バンちゃんと彼女のお母さんと、夏の懇親会を満喫

2014年11月から開始したシリーズ「よねやま」から広がる新しい世界」は、今回が最終回。最後にご紹介するのは、東京米山友愛ロータリークラブ（RC）の朴貞子さんと、イラク出身のバン・アルマリキさん。実は朴さん自身も元米山奨学生で、自分の経験から、奨学生には一生の思い出をつくってあげたいと、強い意気込みでカウンセラーとなりました。朴さんの思いを受け、奨学期間を送ったバンさん。その交流を、思い出とともに語っていただきました。



米山学友
バンアリ モハメッドアルマリキ さん

出身：イラク
奨学期間：2016年4～8月
学校名：早稲田大学大学院

世話クラブの会員の温かさに感動

私は子どもの頃から日本文化が大好きで、留学を考えた時、「もっと日本のことを知りたい」と、迷わず日本の大学を選びました。2010年に早稲田大学国際教養学部^{ホユウブイ}に留学し、同大学大学院の政治学研究科に進みました。政治学を専攻したのは、混迷する中東の状況を分析し理解する、唯一の方法だと考えたからです。修士論文の完成に向け、研究に集中するために奨学金が必要だった私は、大学から情報を得て米山記念奨学金に申し込み、支援を受けることができました。

秋入学だったため、奨学期間が5か月と短く、東京米山友愛ロータリークラブの例会に出席したのは4回だけでしたが、社会で成功を収めている会員の皆さんが、親しく接してくれることに感動しました。

また、カウンセラーの朴さんは、これまでに会った人の中でも特に心の温かい人でした。自宅に招いてもらったことは、忘れられない思い出です。とても楽しい時間を過ごしました。朴さんがカウンセラーで、私は幸運だったと思っています。

短期間でも大きな意味を持つ交流

卒業後は、夫と暮らすためにアメリカに移り、今は博士課程に進学するのに必要な準備をしています。将来は、政治家、あるいは政治学と中東文化を教える大学教授になることを志していますが、社会経験を積むため、仕事もしてみたいと考えています。

日本のロータリアンの皆さんに、感謝とお伝えしたいのは、私たち留学生にとって、経済的な支援はもちろんですが、心に寄り添ってくれるような、精神的な支援がとても大切だということです。米山奨学生として過ごした5か月間、私はこの両方の支援をいただくことができました。遠くに離れた今も、メールやSNS（会員制交流サイト）を通じて、世話クラブの皆さんが私のことを気遣い、応援してくれていると感じます。できることなら、もっと早く皆さんと出会いたかった。奨学生としてもっと長く一緒に過ごすことができたら、人生を変えるような教えをより多く学べていたはずだと思うからです。それでも、皆さんとの交流で得たことは大きな意味を持ち、私の中で生き続けていくと思います。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



「感謝 in 熊本」開催のご案内 ～米山記念奨学会 財団設立50周年記念～

ロータリー米山記念奨学会は今年7月、財団設立50周年を迎えます。これを記念し、世界の米山学友・学友会が協力して50周年を祝う場として、米山学友合同会実行委員会（何玉翠委員長）主催、第2720地区米山記念奨学委員会と同地区学友会のホスト、当会の後援により「感謝 in 熊本」を開催します。現役の米山奨学生、国内外の学友はもちろん、ロータリアンや家族の参加も歓迎です。詳細は当会ホームページ（www.rotary-yoneyama.or.jp）をご覧ください。

日時：2017年8月26日（土）午後4時受付開始

場所：ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

締切：2017年7月31日（状況により変動する場合があります）

2017-18年度は
財団設立50周年

